

令和6年度
教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価報告書

小 林 市 教 育 委 員 会

報 告 書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、令和6年度の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について、報告書を提出する。

令和7年8月25日

小林市教育委員会

教育長 大山 和彦

1 はじめに

小林市は、平成 29 年 3 月に、協働のまちづくりの推進等を基本理念とした「第 2 次小林市総合計画」を策定しました。

この計画に基づき、教育委員会においても、この総合計画の個別計画である「小林市教育基本方針」を策定し、本市の教育目標である「『学びたい』『学ばせたい』気持ちを高める小林教育」の具現化に向けて取り組んでいます。

この教育目標には、「学び」と「健康」を大切にしながら、小林市民として豊かで創造的な生活を送ってほしいという願いが込められており、その実現に向けて、就学前の子どもから青年・成人、高齢者を含めた生涯学習社会に対応した「学びの継続性」と「豊かさ」の実現をめざすとともに、市民一人ひとりが「自立」「感謝」「貢献」という本市ならではの循環型の社会づくりの実現を図ってまいりました。

そこで、教育委員会の活動状況及び小林市教育基本方針並びに教育施策に基づく各種事業について、教育委員会では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第 26 条第 1 項の規定により、点検及び評価を行います。

なお、令和 6 年度事業における教育委員会が管理・執行する事務については、令和 5 年 2 月 1 日付文部科学省初等中等教育企画課事務連絡「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について（周知）」に基づき本市の行政評価を活用することとし、地教行法第 26 条第 2 項の規定による学識経験を有する者の知見の活用については、教育委員会の活動及び行政評価における基本施策について評価を実施していただきました。

教育委員会が、地域の教育課題に応じた基本的な教育の方針を策定し、これに即して実施した政策について、効果をしっかりと把握し、必要性、効率性等の観点から自ら点検及び評価を行い、その結果を公表することは、政策立案を的確に行うとともに、市民に対する説明責任を果たす上で重要であると考えています。

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律】（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価方法

① 点検及び評価の対象

教育委員会の活動状況のほか、小林市教育基本方針並びに教育施策に基づく各種事業について、その事業の目的、概要等の成果と課題を整理した内容を点検及び評価の対象としています。

② 点検及び評価の対象年度

令和6年度

③ 点検及び評価の方法

教育委員会の活動状況及び小林市教育基本方針並びに教育施策に基づく各種事業について、事業の取組内容、成果、課題等の評価を行います。

④ 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項の規定に基づき、
宮崎大学 教育学部長 戸ヶ崎 泰子 氏 に講評を依頼します。

大項目 1 教育委員会の活動

中項目	小項目	点検 ・ 評価
(1) 教育委員会の会議の運営改善	①教育委員会の会議の開催状況	<p>教育委員会の会議は、地教行法及び小林市教育委員会会議規則に基づき、教育長及び教育委員が教育に関する基本的な方針、規則等の制定や改正、教職員の人事、教科書の採択等を審議した。</p> <p>定例会については毎月1回、臨時会については、急を要する議案等が生じた場合に開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 開催回数 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定例会 12回 ・ 臨時会 1回 ○ 審議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 議決案件 55件 ・ 報告案件 33件 <p>今後も本市の教育推進のために計画的に会議を開催し、十分な議論及び検討を行う。</p>
	②教育委員会の会議の運営上の工夫	<p>教育に関する報道などの情報を教育委員と共有することや議案を上程する前の定例会で事前に説明することで、より深まりのある会議の運営に取り組んだ。</p> <p>また、教育委員が意見交換を行いやすい雰囲気づくりに努めるとともに、教育長が教育行政の状況について毎回報告し、教育委員との情報共有に努めるなど、会議進行上の工夫を行った。</p>
(2) 教育委員会の会議の公開	①教育委員会の会議の傍聴者の状況	<p>教育委員会会議の開催日はあらかじめ告示した。</p> <p>また、会議の会場として須木地区及び野尻地区でも開催した。</p> <p>市ホームページや市広報紙において会議について周知した。傍聴者はいなかったものの、市民に開かれた会議運営が出来ているものとする。</p> <p>今後も効果的な周知方法、開催会場や開催日時等について継続して検討する。</p>
	②会議録の公開、広報・公聴活動の状況	<p>会議の概要について、市ホームページに掲載し周知を図った。今後も市ホームページや市広報紙等を積極的に活用し、広報活動を行う。</p> <p>今後は、社会教育委員をはじめ、スポーツ推進委員等の各種委員との意見交換会や、教育委員による社会教育委員の会の傍聴など、それぞれの活動や取組について相互に情報を共有し連携を図る。</p>

<p>(3) 教育委員会と首長との連携</p>	<p>①首長との意見交換</p>	<p>市長と教育委員による総合教育会議を開催し、今後の学校の在り方や放課後を中心とした家庭教育の在り方、不登校対策について意見交換を行った。</p> <p>また、教育委員会事業について、教育長は市長及び副市長との連絡調整を密に行ったことで、新たな取組や予算面への反映などに務めた。</p> <p>教育委員会が地域における教育の担い手としての責任を果たすため、今後も関係部局との連携を図りながら、「協働のまちづくり」や「協働の学校づくり」を一体となって推進する。</p>
<p>(4) 教育委員会の自己研鑽</p>	<p>①研修会への参加状況</p>	<p>教育委員を対象とした研究大会・研修会に参加し、教育委員会及び教育委員活動の職務遂行に必要な知識等を深めることができた。今後も積極的に研修会に参加するとともに、近隣市町との合同研修会等の更なる充実を図る。</p> <p>○ 研修会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月 市町村教育委員会連合会総会（宮崎市） ・ 7月 西諸県市町教育委員会連合協議会研修会（小林市） ・ 10月 市町村教育委員会連合会研究大会（宮崎市）
<p>(5) 学校及び教育施設に関すること</p>	<p>①学校訪問</p>	<p>教育委員の学校訪問は、児童生徒の学習環境や学校施設の現状、教職員の勤務環境等の把握などを目的としている。</p> <p>訪問当日は、学校長から学校の概要や課題、教育方針等についての説明や、教職員との意見交換、授業参観を実施した。</p> <p>また、学校訪問後は、教育委員会の会議で感想や課題を報告し、教育施策や予算等に反映させることができた。</p> <p>今後も学校現場の現状や課題等を把握するため、より効果的な学校訪問となるよう内容の見直しを検討する。</p> <p>○ 訪問校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月 三松小学校、三松中学校 ・ 9月 須木小学校、須木中学校 ・ 10月 東方小学校、幸ヶ丘小学校、細野小学校、東方中学校、細野中学校 ・ 11月 野尻小学校、野尻中学校
	<p>②所管施設の訪問</p>	<p>学校訪問をすることで、学校施設の状況の把握に努めた。</p> <p>その他の教育施設についても、令和9年度に県内で開催される国スポ・障スポの市内競技会場の視察を行った。</p> <p>今後も、教育施設の適正な管理に必要な施策及び事業を推進するために、計画的に学校訪問や現地視察を行う必要がある。</p>

大項目 2 教育委員会が管理・執行する事務

基本施策	方針
01 学校教育を充実します	01 就学前教育と学校教育の推進と充実 02 学力向上の推進 03 こころの教育の推進と充実 04 からだの教育の推進と充実 05 特別支援教育の推進と充実 06 新しい時代に対応した教育環境の整備と充実 07 キャリア教育の推進と充実 08 協働の学校づくりの推進と充実 09 学校教育施設の整備と充実
02 生涯学習を推進し、文化・芸術を振興します	01 生涯学習の推進と地域の教育力の向上 02 豊かな感性を育む社会教育の推進 03 放課後子ども教室と学校支援の充実 04 読書活動の充実 05 市民の心を豊かにする文化・芸術の振興 06 郷土の誇る文化遺産の保護と活用の推進 07 社会教育施設の整備と充実
03 スポーツ・体づくりを推進します	01 生涯スポーツの推進 02 競技力の向上 03 スポーツ環境の整備と充実 04 食育の推進と充実

令和 6年度 基本施策評価書

施策の大綱	03 まなび					
基本施策	01 学校教育を充実します					
主管課	学校教育課					
関連課	社会教育課 スポーツ振興課 こども課 健康推進課 福祉課 商工観光課 危機管理課					
	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	事業費計(千円)
令和 5年度実績	973	13,498	22,700	193,375	516,943	747,489
令和 6年度実績	1,534	16,583	33,200	222,670	615,801	889,788
目標実現に向けた今後の取組	第2次小林市総合計画及び0歳から100歳までの小林教育プランを基本に各施策に取り組む。社会の変化が激しく未来の予測が困難な時代の中で、児童生徒が生きていくために必要な資質・能力を育成するため、学習指導要領に基づき、情報活用能力の育成と主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICT活用の促進を図る。教職員の業務効率化等、業務負担の軽減を図り、教育の質の向上を図る。市の最重要施策である健康都市を推進するため、児童生徒の健康の保持増進・歯科保健を推進する。TENAMUビル内に設置する「豊かな学び支援室」を拠点に、地域と学校、産業界の連携・協働した活動の更なる推進、不登校児童生徒の学習環境の充実、教職員の学びの機会提供を行い、本市の未来を担う児童生徒の健全育成及び人材育成を図る。学校施設長寿命化計画に基づき、効率的で計画的な施設整備を図ることで、児童生徒の学習環境の向上と安心・安全な学校生活を提供する。小林市教育みらい検討委員会から出された提言書を基盤に、地域住民や保護者、児童生徒との意見交換を行い、今後の学校の在り方について、方針を検討する。					

方針	01 就学前教育と学校教育の推進と充実					方針順位	—
目標	就学に向けて家庭の教育力を高めながら、幼児期から小学校低学年の保育・教育の連携が図られている状態						
実績	未就学児童向け紙芝居や教育支援ファイル「絆」について、幼保小連絡協議会や小学校入学説明会等において、活用及び普及啓発を行った。また、保育、教育の在り方連携として「架け橋カリキュラム」の研修を行い、授業や遊び、体験活動を通して、心身の健康や体力向上につなげることができた。前年度に引き続き「進んで心と体を鍛える」を重点指導項目に設定し、幼・保・小で指導したことで、達成度は微増した。						
指標名	幼保小一貫目標達成度(単年度)					単位	%
目標値	令和 4年度		令和 5年度		令和 6年度		令和 7年度
	計画	79.40	79.50	79.60	79.70		
	実績	83.10	83.60	83.61			
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
実績理由	アンケートや研修を通して、保護者や先生に子どもとの関わり方について伝えたことから取組が広まったと考える。						
今後の取組	引き続き、子育て支援テキスト、紙芝居、教育支援ファイル「絆」の活用を促進する。幼保小連絡協議会で保育と教育の在り方について連携を図り、保護者・教職員向けアンケートを実施し、結果を共通認識するとともに、結果から重点指導項目を設定し、幼・保・小で共通した指導を重点的にを行い、その対策を講じていく。						

方針	02 学力向上の推進					方針順位	—
目標	主体的に学習に取り組む態度が向上している状態						
実績	連携型小・中一貫教育を基本とし、思考力・判断力・表現力を育むための授業改善や研究指定校による実践的研究に取り組んだ。教育研究センターでのタブレット型パソコンを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業研究、映像論文の募集、発表会開催で教職員の資質・研修意欲の向上を図り、教育活動全体を通じたキャリア教育を実施した。学びたい度は横ばいとなった。						
指標名	学びたい度(単年度)					単位	%
目標値	令和 4年度		令和 5年度		令和 6年度		令和 7年度
	計画	63	66	69	72		
	実績	57	57.60	57.50			
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
実績理由	学びたい度について、目標値には届いていないが「どちらかといえば当てはまる」という回答も含めると89.3%だった。約9割に肯定的な回答が見られ、主体的に学習に取り組む姿が見られる。						
今後の取組	連携型小・中一貫教育を基本とし、個に応じた学習指導の充実や授業改善を図るとともに、研究指定校による実践的研究に取り組む。KSSVCや小林市キャリア教育支援センターとの連携を図り、こすもす科を中心にキャリア教育を更に推進することで、児童生徒の地域や社会への関心を高め、ひいては学力向上へつなげる。						

方針	03 こころの教育の推進と充実				方針順位	—
目標	児童生徒の道徳性や人権感覚が高まり、いじめや不登校等、児童生徒が抱える問題が解消した状態					
実績	学校において道徳や学級活動の授業を通して、いじめや差別について考える授業を行った。スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）やスクールカウンセラー（ＳＣ）、スクールアシスタント（ＳＡ）の配置、適応指導教室の活用によって問題を抱える児童生徒への支援を行うことで精神的な落ち着きが出てきているが、登校状況の改善には至らず、新規を含む不登校児童生徒が増加した。					
指標名	いじめの認知解消率(単年度)				単位	%
目標値	計画	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	100
	実績	78.10	68.60	69.20		
指標名	不登校率(単年度)				単位	%
目標値	計画	1.02	0.99	0.96	0.93	
	実績	1.61	1.88	2.34		
指標名					単位	
目標値	計画					
目標値	実績					
実績理由	いじめは、丁寧に見届ける対応をとっているため年度を超えて解消する場面がある。不登校は、その理由や背景が複合的で複雑化しているため、改善までに時間を要すことと、新たな不登校児童生徒が増加傾向にある。					
今後の取組	各小中学校で道徳教育や人権教育の充実を図り、人権意識の高場に取り組む。不登校傾向の初期段階でＳＳＷ・ＳＣ・支援員との連携を図り、多様化・複雑化している児童生徒の悩みや問題に対応し、未然防止に取り組む。不登校児童生徒が安心して学習支援や相談支援を受けられるよう、教育支援センターの充実を図る。					

方針	04 からだの教育の推進と充実				方針順位	—
目標	(1)体力が向上した状態 (2)健康な児童生徒が育っている状態					
実績	各学校でスクールスポーツプランを作成し、課題解消のための具体的な実践に取り組んだ。学校保健安全法に基づき、児童生徒の各種健診を西諸医師会、小林市歯科医師団の協力を得て実施した。歯科保健対策について、市内小中学校でフッ化物洗口を継続して実施した。					
指標名	新体力テスト結果(単年度)				単位	学年
目標値	計画	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	7
	実績	6	6	7	7	
指標名	むし歯有病者率(単年度)				単位	%
目標値	計画	57.20	56.20	55.20	54.20	
	実績	54.10	54.90	47.20		
指標名					単位	
目標値	計画					
目標値	実績					
実績理由	スクールスポーツプランに基づき、体育の授業でICTを活用した指導内容の工夫を行った。むし歯有病者率については、就学前から継続しているフッ化物洗口の効果が表れていると思われる。					
今後の取組	各学校で作成するスクールスポーツプランを計画的に実施し、体力の向上を図っていく。また、学校保健安全法に基づき児童生徒及び教職員の健診を実施するとともに、児童生徒が生涯にわたって健康な生活を送るために引き続き小児生活習慣予防健診の受診率向上及び歯科保健の推進に取り組む。					

方針	05 特別支援教育の推進と充実				方針順位	—
目標	一人一人のニーズに応じた特別支援教育が行われている状態					
実績	通常の学級又は特別支援学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対し、市独自の取組として、日常生活動作の介助、学習活動上の介助及び身体介助を行う特別支援教育支援員を27人配置するとともに、多人数の特別支援学級に対し非常勤講師を5人配置し、個に応じた支援を実施した。					
指標名					単位	
目標値	計画	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	
	実績					
指標名					単位	
目標値	計画					
目標値	実績					
指標名					単位	
目標値	計画					
目標値	実績					
実績理由	特別支援教育支援員や非常勤講師を適正に配置することで、個に応じた支援が実施できた。					
今後の取組	就学相談会や学校ヒアリング等を通して、児童生徒一人一人の実態を的確に把握した上で、特別支援教育支援員の適正な配置を行っていく。また、各学校内において、管理職を含む教職員に、児童生徒の特別支援に係る情報提供や情報共有を行うとともに、特別支援教育支援員の研修会を実施する。					

方針	06 新しい時代に対応した教育環境の整備と充実				方針順位	—
目標	(1) 教員が児童生徒とじっくりと向き合っている状態 (2) ICTや外国語指導助手を活用した効果的な学習指導が行われている状態					
実績	市内全小・中学校で、タブレット型パソコンを授業で活用できる環境整備や授業等での積極的な活用を行った。教員用タブレット型パソコンを整備したことで授業での活用が促進された。教職員が担うべき業務に専念できる環境整備のため、サポートスタッフ及び部活動指導員を計画数配置した。また、ALTについて外国語授業のほか、給食、体育、掃除等の時間も活用し、児童生徒がALTと触れ合う時間の創出を図った。					
指標名	時間外勤務が月80時間を超える教職員の割合(単年度)				単位	%
目標値	計画	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	実績	0	0	0	0	
指標名	計画	3.80	2	1.70		
	実績					
指標名	授業中にICTを活用して指導する能力(単年度)				単位	%
目標値	計画	70	75	80	85	
	実績	77.90	83.30	82.10		
指標名	計画	82.50	83	83.50	84	
	実績	92.20	93.08	94.01		
実績理由	部活動指導に係る時間外勤務が十分に減っていないことが要因であるが、教職員の時間外勤務は年々減少している。働き方改革プラン推進によるものと思われる。					
今後の取組	小林市教職員の働き方改革プランに基づき、サポートスタッフや部活動指導員の配置、部活動拠点校方式の活用、地域クラブ活動の推進を継続して行う。ICT支援員の派遣や操作講習会の実施など教員がICTを活用できるよう努める。ALTを派遣し、外国語教育・国際理解教育の充実を図る。					

方針	07 キャリア教育の推進と充実				方針順位	—
目標	学校と家庭・地域社会、産業界等の連携・協働により、小・中学校が一貫したキャリア教育に取り組んでいる状態					
実績	学校と産業界等の連携・協働によるキャリア教育推進体制の構築を図った。キャリア教育コーディネーターの活動により協力企業数(登録社数)は129社となった。キャリア教育コーディネーターが、学校行事等において地域や産業界の人材を活用した学びを推進したことで、地域社会や地元産業界の理解が深まった。					
指標名	授業に協力できる企業登録社数(累計)				単位	社
目標値	計画	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	実績	90	93	96	100	
指標名	計画	103	114	129		
	実績					
指標名	小林市の小・中学校で「子どもを学ばせたい」と感じる市民の割合(単年度)				単位	%
目標値	計画	60	65	70	72	
	実績	63	54.74	55.50		
指標名	計画					
	実績					
実績理由	市民アンケート(自由記述)によると、教育レベルの向上や学習支援の充実、不登校児童生徒への支援、学校施設改修を含めた学習環境の改善、多様な教育機会の提供を求める等、様々な意見があった。					
今後の取組	TENAMUビル内に設置する「豊かな学び支援室」を拠点に、地域と学校、産業界の連携・協働した活動の更なる推進、不登校児童生徒への支援や学習環境の充実、教職員の学びの機会提供を行い、教育現場における諸課題の解決を目指し、教育環境の充実を図る。					

方針	08 協働の学校づくりの推進と充実				方針順位	—
目標	地域住民の学校への関心が高まった状態					
実績	学習支援、部活動、環境整備、登下校指導など、全校合わせて5,651活動、ボランティア参加延べ人数25,859人の支援が行われた。各小・中学校において、学校運営協議会を設置し、協働の学校づくり推進協議会を2回計画どおり開催することができた。					
指標名					単位	
目標値	計画	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	実績					
指標名	計画					
	実績					
指標名	計画					
	実績					
実績理由	協働の学校づくり推進協議会でのグループワーク等を通して、それぞれの学校運営協議会の取組を相互に確認することにより、様々な学校支援に生かされていると思われる。					
今後の取組	学校と地域が真のパートナーとして効果的な連携・協働を図ることができるよう、学校運営協議会の協議内容を充実させるとともに、地域学校協働本部との連携を強化する。これにより、学校支援ボランティア等の増加を促進し、地域住民と児童生徒が向き合う機会の創出を図る。					

方針	09 学校教育施設の整備と充実				方針順位	—	
目標	学校施設の整備が行き届いた状態						
実績	野尻小昇降口棟・小林中管理棟屋根防水改修工事、須木小・須木中渡り廊下改修工事、三松中職員室空調設備改修工事、紙屋中分電盤改修工事等を実施した。台風10号で被災した西小林小北校舎及び東方小西校舎屋根防水改修工事を実施した。西小林小・三松小・小林中・西小林中・細野中の屋外トイレ、永久津小女子トイレの修繕を実施した。小林市教育みらい検討委員会から「小林市立学校の在り方に関する提言書」が提出された。						
指標名						単位	
目標値	計画	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	——	
	実績						
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
実績理由	児童生徒が利用する上で危険性の高いものから順次修繕や工事を実施し、学校施設及び学習環境の向上を図った。小林市教育みらい検討委員会において、今後の学校の在り方について検討いただいた。						
今後の取組	児童生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう、老朽化した学校施設の危険箇所について、緊急を要するものは工事等により随時対応を図る。「小林市立学校の在り方に関する提言書」を基盤に、地域住民や保護者、児童生徒との意見交換を行い、今後の学校の在り方について、方針を検討する。						

令和 6年度 基本施策評価書

施策の大綱	03 まなび					
基本施策	02 生涯学習を推進し、文化・芸術を振興します					
主管課	社会教育課					
関連課	学校教育課 スポーツ振興課 地方創生課 市民課 商工観光課 こども課					
	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	事業費計(千円)
令和 5年度実績	2,128	4,088	26,300	63,165	153,397	249,078
令和 6年度実績	1,000	2,057	0	35,493	156,444	194,994
目標実現に向けた今後の取組	<p>社会教育施設を安心・安全に利用できるよう整備するとともに、施設の老朽化等については、小林市公共施設個別施設計画を基に対応する。文化会館は、改修計画に沿って改修を進めており、複合的な活用も視野に入れ市の中心的な施設として機能拡大を図る。</p> <p>また、0歳から100歳までの小林教育プランでは、市民一人一人が学習活動や地域活動等に喜びを感じ、生涯にわたり夢と希望をもつことができる「人づくり」を目指している。生きがい学級、家庭教育学級、しあわせ学園等の講座では、企業、講師登録者やボランティア団体等の連携を強化し、充実した事業の提供を図る。放課後の児童対策としては、ボランティア人材の確保・拡大を促進し、学校支援の強化を図るとともに、児童の安心・安全な生活を支援する。</p> <p>また、講座、教室、イベント等については、市民の元気、笑顔を絶やさないように、開催に向けあらゆる方法を積極的に検討し、様々な感染症対策を講じながら実現を図る。</p>					

方針	01 生涯学習の推進と地域の教育力の向上					方針順位	—
目標	より多くの市民が、学習活動や地域活動等に参加し、喜びや幸せを感じる状態						
実績	生涯学習講座、家庭教育学級、生きがい学級、しあわせ学園での学習活動を実施した。多くの講座や各学級等での活動において、笑顔で市民が交流する機会を提供した。改めてこのような学習の機会の重要性を感じた。						
指標名	生涯学習講座延べ参加者数(単年度)					単位	人
目標値	令和 4年度		令和 5年度		令和 6年度		令和 7年度
	計画	1,300	1,350	1,400	1,450		
	実績	1,609	2,183	2,456			
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
実績理由	これまでの講師登録者の協力や参加者の理解もあり、参加者や講師の満足度を得ることができた。また、新たな講座の開設や内容の充実を図るため、講師を新規に依頼した。						
今後の取組	今後も健康維持・増進に向けた講座や、人権に対する意識の高揚、理解を深めてもらうための講座等に積極的に取り組む。重ねて、青年層の活動が低迷しているので、青年の活動に寄与できる生涯学習講座を開催する。						

方針	02 豊かな感性を育む社会教育の推進					方針順位	—
目標	世代間交流や様々な職業体験により、子どもたちが健全に育成されるとともに、人との交わりの重要性に気づき、将来の夢の実現につないでいける状態						
実績	市内で行われた職業体験イベントに参加した。						
指標名	職業体験活動満足度(単年度)					単位	%
目標値	令和 4年度		令和 5年度		令和 6年度		令和 7年度
	計画	65	70	75	80		
	実績	87.40	81.60	92.30			
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
実績理由	数多くの参加者のもと、高い満足度を得ることができた。						
今後の取組	学校ではできない学びの機会について、今後も市内企業や高校、小林市キャリア教育支援センター等との連携を更に強化し、幅広い分野で事業を提供する。						

方針	03 放課後子ども教室と学校支援の充実				方針順位	—
目標	(1) 余裕教室や公民館等を活用し、放課後の子どもたちや地域住民が、地域教育に参加できる状態 (2) こばやしスクールサポートボランティアセンター(KSSVC)のサポートのもと、地域住民の参画により各学校での学習支援活動等の諸活動が支援されている状態					
実績	学習支援、部活動、環境整備、登下校指導など、全校合わせて5,651活動、ボランティア参加延べ人数25,859人の支援が行われた。また、KSSVCと小林市キャリア教育支援センターとの連携を図り、広報紙「てなむ」を発行した。					
指標名	KSSVC登録者数(累計)				単位	人
目標値		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	計画	81	83	85	87	
	実績	84	83	84		
指標名					単位	
目標値	計画					
	実績					
指標名					単位	
目標値	計画					
	実績					
実績理由	KSSVC登録者については、伸び悩んでいる。各学校の登録ボランティアの協力のもと、多岐にわたる学校支援が行われた。					
今後の取組	KSSVC登録については学校等を通じて新たな周知の仕方を検討する必要がある。学校での学習支援強化のため「にしもろまなばせ隊」などの広域的ボランティア人材の活用を積極的に検討し、学校支援の強化や、支援方法の在り方等についても検討する。					

方針	04 読書活動の充実				方針順位	—
目標	図書情報や図書に触れる機会を充実し、市民が気軽に図書館を利用できる状態					
実績	市立図書館読書まつりを開催し、市民に対して図書館の活動や読書の楽しさ、大切さを周知した。ブックスタート事業による絵本の配布、読み聞かせ会や季節のイベント開催による読書活動の推進を図った。					
指標名	図書館延べ入館者数(単年度)				単位	人
目標値		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	計画	60,000	65,000	65,000	65,000	
	実績	61,789	62,379	58,058		
指標名					単位	
目標値	計画					
	実績					
指標名					単位	
目標値	計画					
	実績					
実績理由	電子図書の普及や学校図書の充実などにより入館者数は減少したものの、読み聞かせ会や季節のイベント等には、多くの市民の方が参加された。					
今後の取組	入館者の増加に向けて、各種イベントの周知や図書館利用の利点等の周知に努める。施設や保育園への訪問や職場等への団体貸出を実施し、本に触れる環境を提供し、読書活動の促進を図る。					

方針	05 市民の心を豊かにする文化・芸術の振興				方針順位	—
目標	市民が文化・芸術に関心を持ち、各種公演や展示会等へ積極的に参加する状態					
実績	文化会館における自主事業の開催や、総合文化祭における作品展示、芸能祭、音楽祭を開催することで、多くの市民に文化・芸術に触れる機会を提供した。					
指標名	文化会館イベント集客率(自主文化事業)(単年度)				単位	%
目標値		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	計画	60	65	70	75	
	実績	51.70	65.80	65.50		
指標名					単位	
目標値	計画					
	実績					
指標名					単位	
目標値	計画					
	実績					
実績理由	安価な入場料や、魅力あるコンテンツで自主事業を開催したものの、一部イベントにおいて集客率アップにつながらなかった。					
今後の取組	イベントについて市民の関心を得られるような周知に努め、芸能祭や音楽祭についても出演者以外の観客の獲得に工夫しつつ、イベントの開催内容についても見直しを図る。					

方針	06 郷土の誇る文化遺産の保護と活用の推進					方針順位	—
目標	文化財や伝統文化等が保護・保存・継承された状態						
実績	市民向けのガイドや生涯学習講座で「ヒストリア講座」を実施するとともに、生きがい学級での講座、各小中学校への出前講座、二原遺跡公園のガイド、エヒメアヤメの保護活動周知などに取り組んだ。また、本年度も本城原第2遺跡の発掘調査事業に取り組む、文化財の保護に取り組んだ。						
指標名	文化財・観光DMOでガイドを利用した人の数(単年度)					単位	人
目標値		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	———	
	計画	2,750	2,800	2,850	2,900		
	実績	3,456	2,200	2,517			
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
実績理由	ガイド対応が困難な時期があったことから、目標値を達成できなかったが、エヒメアヤメ等、希少植物の保護活動を周知する企画展を実施したことにより、令和5年度よりは実績が上がった。						
今後の取組	文化財マップ等を利用しながら市民ツアーの開催や研修会などを実施し、文化財や天然記念物等の周知を広める活動を推進する。また、ガイドボランティア協会の活動の周知を図り、ガイド利用者の増加を図る。						

方針	07 社会教育施設の整備と充実					方針順位	—
目標	教育・文化の拠点が整備され、充実した生涯学習の推進と文化・芸術が振興されている状態						
実績	市民大学や各種講座、コンサート、ミニイベント等を開催したことにより、来館者数が増加した。また、入館者数が安定して高い水準となっており、中心市街地の活性化につながっている。						
指標名	TENAMUビル2階公共スペース入館者数(単年度)					単位	人
目標値		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	———	
	計画	80,000	82,000	84,000	86,000		
	実績	92,241	103,924	98,742			
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
実績理由	市民大学や各種講座、コンサート、ミニイベント等を開催し、多数参加していただいた。						
今後の取組	生涯学習講座等と連携し、子育て環境の充実につながる事業の展開を進める。また、豊かな学び支援室を設置しキッズコーナーなどもリニューアルしながらさらに施設の利便性を高める。						

令和 6年度 基本施策評価書

施策の大綱	03 まなび					
基本施策	03 スポーツ・体づくりを推進します					
主管課	スポーツ振興課					
関連課	学校教育課 社会教育課 国スポ・障スポ推進室 農業振興課 商工観光課 健康推進課 企画政策課					
	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	事業費計(千円)
令和 5年度実績	510,235	11,805	476,200	137,809	338,878	1,474,927
令和 6年度実績	474,008	72,810	496,800	131,066	396,849	1,571,533
目標実現に向けた今後の取組	スポーツ推進計画に基づき、各種事業として健幸こばやし大運動会、こばやし駅伝競走大会、こばやし霧島連山絶景マラソン大会を開催する。スポーツ推進委員や総合型スポーツクラブとの連携により、子どもから大人までの生涯スポーツの推進と充実を図る。昨年度に引き続き、各競技団体と連携し、幼児から小学校低学年の子どもを対象に親子で参加できる競技力向上事業(キッズチャレンジオリンピックinこばやし)を実施する。体育施設の老朽化等に伴う課題については、長寿命化計画に基づき対応を図る。令和6年度においては、須木地区体育館の屋根改修工事を行った。令和9年に開催される「日本のひなた宮崎国スポ・障スポ」に向けては、円滑な大会運営が図られるよう、実行委員会を中心にオール小林で強力に進めていく。学校給食については、引き続き安心安全な給食の提供を第一に実践し、地産地消率の向上についても、地産地消推進員を中心に栄養教諭や関係団体及び関係課との連携を図る。健康食や郷土食の料理教室等を開催する中で、各学校や地域と連携した食育の実践に取り組む。					

方針	01 生涯スポーツの推進					方針順位	-
目標	(1)誰もがいつでもスポーツができる状態 (2)運動・スポーツへの関心が高まった状態 (3)健康維持のための運動習慣が身に付いた状態						
実績	健幸こばやし大運動会スポレク2024、こばやし駅伝競走大会、キッズチャレンジオリンピックinこばやし、こばやし霧島連山絶景マラソン大会を開催した。また、ガッツイ運動教室の開催やニュースポーツの体験等を行い、運動・スポーツに親しむ環境作りに努めた。さらに、老朽化する社会体育施設の維持管理及び計画的なLED照明への交換を行い、市民が運動しやすい環境整備に努めた。						
指標名	運動実施率(単年度)					単位	%
目標値	令和 4年度		令和 5年度		令和 6年度		令和 7年度
	計画	49	52	56	60		
	実績	42.90	50.10	43.80			
指標名	市民スポーツ祭総参加者数(単年度)					単位	人
目標値	令和 4年度		令和 5年度		令和 6年度		令和 7年度
	計画	2,200	2,300	2,400	2,500		
	実績	2,492	2,496	2,758			
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
実績理由	運動実施率については、運動する時間がないことや昨今の異常気象による猛暑等で運動実施を控えたこと等が計画より減となった要因と考える。						
今後の取組	健幸のまちづくりの実現に向けて、各種競技団体や関係課と連携を図り、イベントの実施やスポーツ推進委員の派遣などを行い、気軽にスポーツを親しめる機会の提供に努める。						

方針	02 競技力の向上					方針順位	-
目標	(1)幼少期からスポーツに親しむ機会が創出された状態 (2)指導体制が充実した状態						
実績	キッズチャレンジオリンピックinこばやしを開催し、幼少期からスポーツに親しむきっかけづくりを行い、スポーツ少年団加入につなげた。また、年間を通して全国・九州大会等に出場した個人、団体に出場費・宿泊費を補助し、競技力向上に努めた。						
指標名	スポーツ少年団加入率(単年度)					単位	%
目標値	令和 4年度		令和 5年度		令和 6年度		令和 7年度
	計画	27.70	28.60	29.50	30		
	実績	25.85	25.50	25.70			
指標名	全国・九州大会出場数(個人・団体)(単年度)					単位	
目標値	令和 4年度		令和 5年度		令和 6年度		令和 7年度
	計画	35	37	39	40		
	実績	47	31	48			
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
実績理由	スポーツ少年団加入率は前年度に比べ微増となったが、児童数の減少や解散及び休止状態となったスポーツ少年団のチームがあったことから、計画より減となった。						
今後の取組	小学校低学年と年長児を対象としたスポーツ教室(キッズチャレンジオリンピックinこばやし)の内容を一部見直し、ニュースポーツ等を取り入れ、運動の楽しさとスポーツに親しむ機会を創出する。引き続き、競技力向上に努め、全国・九州大会に出場する個人・団体への支援を行う。						

方針	03 スポーツ環境の整備と充実				方針順位	—	
目標	安心、安全にスポーツができる状態						
実績	定期的な施設点検を市スポーツ協会に委託し修繕等が必要な場合は修繕等を行い、安心して利用できるよう施設管理を行った。健幸のまちづくり拠点施設整備については、管理運営WG会議や専門部会を設け、関係課と協議を行い、開設に向けた協議を行った。						
指標名						単位	
目標値	計画	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	———	
	実績						
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
実績理由	修繕等の要望があった際に迅速な対応を行い、安心して利用できる環境整備に努めた。						
今後の取組	施設の巡回等を行い、利用者からの修繕依頼や要望に対し、必要に応じて対応する。健幸のまちづくり拠点施設整備については、WG会議や専門部会で協議し、管理運営基本計画の策定を行う。また、新体育館建設に向け、公共施設予約システムの導入や備品等の整備も行う。						

方針	04 食育の推進と充実				方針順位	—	
目標	食を通じて健康な生活が維持できる状態						
実績	衛生管理などを徹底し、安全で安心な食材を使用した学校給食を提供した。学校給食を通じて、食べることの大切さなどを伝えた。						
指標名	農業体験実施学校数(単年度)					単位	校
目標値	計画	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	———	
	実績	4	5	6	7		
指標名	学校給食における地産地消率(野菜・果実)(単年度)					単位	%
目標値	計画	37	38	39	40		
	実績	57.74	49.99	45.77			
指標名						単位	
目標値	計画						
	実績						
実績理由	農業体験実施学校数については、計画を上回る7校で実施した。学校給食における地産地消率については、行政や事業者等からの食材提供もあり、計画を上回った。						
今後の取組	農業体験については、未実施の中学校への周知を図りながら、実施校を増やしていく。学校給食における地産地消率については、行政や事業者等からの食材提供を積極的に受け入れ、また、引き続き3つの学校給食センターにおいて毎月16日を「こばやし地産地消の日」とし、地産地消に取り組む。						

知見の活用（地教行法第26条第2項の規定による）

令和6年度の小林市教育委員会の「教育に関する事務の管理や執行の状況に関する点検・評価報告書」を確認した結果、幅広い内容の事業を計画的に遂行していると評価することができる。その成果については、事業ごとの成果には差異がみられるものの、全体としては順調に計画通りの成果を挙げていると捉えることができる。以下に、基本政策ごとに事業内容の成果を整理する。

「教育委員会の活動」に関して、多様な会議開催地の設定や、会議内容のWeb上での周知といった広報面での工夫、自由な意見交換を促す雰囲気づくりや、研修会への参加による自己研鑽など、運営面でも多面的な取組がなされている点が評価できる。一方で、市民の教育行政に対する関心の実態把握については課題があると考えられる。今後は、市民が積極的に関与できる、開かれた教育行政の推進に向けた更なる取組が求められる。

「学校教育の充実」に関しては、教育支援ファイルの活用をはじめとする幼保小連携の強化や、産業界との連携によるキャリア教育の推進など、特色ある取組が成果を挙げている点は高く評価できる。一方で、目標値が設定されている事業のうち目標を下回る指標が5つある。特に、「小林市の小・中学校で子どもを学ばせたいと感じる市民の割合」が5割強にとどまっている点については、要因分析と具体的な対策の検討が不可欠である。なお、この要因は多岐にわたると推察され、学校教育の範疇にとどまらないことから、部局横断的な視点に基づく検討が求められる。義務教育への魅力や期待の低下は、地域の衰退にも直結する重要な課題であるとの認識のもと真摯に対応することを期待する。

「生涯学習の推進」については、市民にとって魅力ある生涯学習講座の企画・運営がなされ、参加者数が期待値を大きく上回っている点は高く評価できる。特に「TENAMU交流スペース」の活用は、今後の更なる充実が期待される。その際には、定住人口のニーズへの対応に加え、関係人口の増加を視野に入れた取組も必要である。また、幅広い年齢層に向けて小林市の魅力を発信する取組も求められる。いずれにせよ、人生100年時代と言われる現代社会において、社会教育の在り方に関する不断の議論と挑戦が必要である。

「スポーツ・体づくりの推進」については、スポーツが盛んであり、自然に恵まれた小林市の特徴を生かした取組が継続されている点が評価できる。令和9年に宮崎県で開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けて、市民・県民の関心を更に高めるためにも、これらの取組を継続するとともに、新たな活動への着手が望まれる。スポーツを通じて幸福で豊かな生活を実現することは、すべての人々に保障されるべき権利の一つであると言われている。また、スポーツは「する・観る・支える」といった多様な関与の仕方を通じて、生涯にわたり参加可能な活動であるとも言われている。「生涯学習」の視点も踏まえつつ、スポーツを通じたウェルビーイングの向上を図っていただきたい。

以上のように、小林市教育委員会では円滑かつ適正な教育行政が推進されており、今後もさまざまな工夫を重ねながら、地域の特性を生かして、あらゆる世代に資する事業展開がなされることを強く期待する。